

加藤栄三・東一 絵画の中の生き物たち

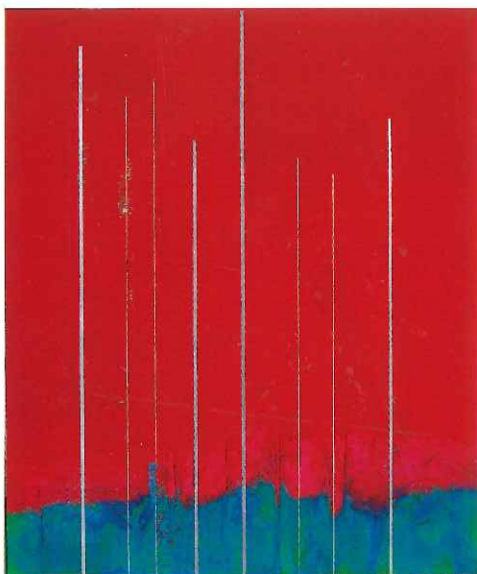
平成28年 9月21日(水)ー11月27日(日)



「夏の小さな生き物たち」 加藤 東一

中風 明世 展

平成28年 9月21日(水)ー11月6日(日)

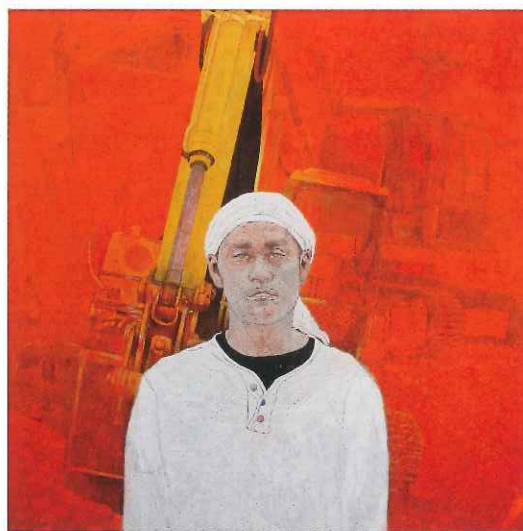


「WORK56」 中風 明世

～会派を越えた熱き魂の日本画家たちの挑戦～

waku waku 湧 湧 展

平成28年 11月8日(火)ー11月27日(日)



「男」 宮原 剛

岐阜市歴史博物館分館
加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46(金華山ロープウェー駅横) TEL・FAX 058(264)6410

開館時間:午前9時ー午後5時(午後4時30分までにご入館ください)

休 館 日:月曜日【10月10日(月)は開館】 9月23日(金)、10月11日(火)、11月24日(木)

観 覧 料:高校生以上300円(団体240円) 小中学生150円(団体 90円)

※下記の方は無料となりますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。

- ①岐阜市在住の70歳以上の方
- ②身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方とその介護者1人
- ③岐阜市内の小中学生
- ④家庭の日【10月16日(日)、11月20日(日)]に入館する中学生以下の方とその家族の方

中風明世展

平成28年 9月21日(水)ー11月6日(日)

●Reflection 面を穿つ線からの一考

面と面の間に刷いた色彩の通り道となる線の行方。細い線は面に撫り、或いは面を穿ち、割れ目となる。赤い色面にメタリックな銀の線であった筈の通り道が、緑に染み渡り始めた時、ふと気がつけば作品の周囲も緑で埋まり、目が落ち着くまでの数分間、投影された映像を見ているかのような錯覚に陥る。はたまた銀の面を鋭く刻む線は、光を放って視覚的に面へと溶け出し、線幅の広狭がリズムを刻む。色面と線による色差の視覚的作用が作り出す作品である。

一色で覆われた画面を眺めていると、どの色価とも均衡を保つニュートラルグレーだった筈の銀の割れ目は、次第に補色へと染まり、貼り付けられた板の段差による遠近を画面から失わせて見せる。これは亀裂や剥落を起こした絵具層と、隙間から見える下地や積層下の絵具との間で時折見られる残像効果に似ている。赤や青、緑といった目に焼きつく純色や蛍光色を好んで用い、ノイズや明滅する光に似た効果を意識させる。補色へと視覚が揺らぐ作用をハレーション効果が増幅させて、観る者の視覚にトランス状態を生み出してゆく。画面を構成する組み合わせられた板の断ち跡は、もうすっかり消失して、パースペクティブな延長線上で、眩暈のように既視感を浸食し、空間の溜りが現れては消えてゆく。

どこか遠い所にある意識の内側で確かめながら制作しているのであろうが、それは視覚の戯れなどではない、面の拡がりや意識の揺らぎもたらす、視覚に作用した出来事である。作品は、残像現象にはじまるリアクションを引き起こし、面と線の関係性を再構築する。即ち、面は線によって、線は面によって各々の独立性を保ち、穏やかな残響を残しつつ、構造上の面と線の在り方で個人的な世界観へと誘ってゆく。絵画が観る者の視覚に作用する、自分が観ていることを視覚的に意識させてくれる、変容していく色彩に見入る時間を内包した作品である。

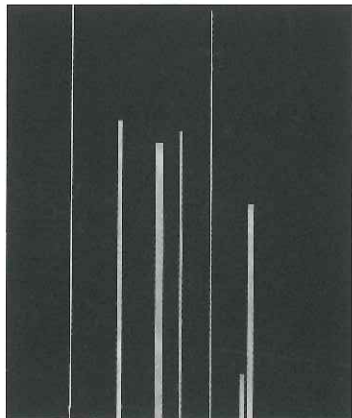
中風明世は、描いた行為としての刷毛跡やドリッピングによる表面の起伏、たらし込みによる染みや滲みといった絵画の要素を残しながら、絵画以外の表現性を持ち込んだ作品作りに取り組んでいる。如何様にも変化するその発想の展開は、中風明世にとっては極めて必然的に訪れるのだろうか、それは音そのものを際立たせて聞かせてくれる現代音楽の術とどこか共通するものがある。

岐阜県美術館学芸員 廣江泰孝

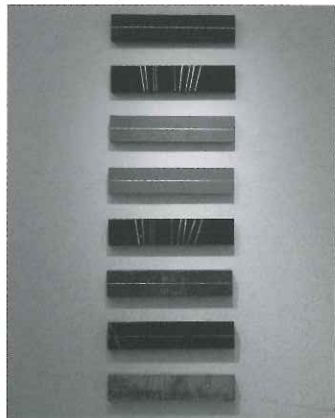


◆中風明世

- 1960 岐阜市生まれ
- 1982 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
- 1994 第3回中風明世展[ギャラリークローキョー・岐阜](画廊企画)
- 1996～現在 モダンアート展[東京都美術館]
- 1999 岐阜市芸術文化奨励賞受賞
- 2000 第4回中風明世展[画廊光芳堂、ギャラリーなうふ・岐阜](画廊企画)
- 2002 文化庁主催・第36回現代美術選抜展[北海道立釧路芸術館]
- 2005～2014 第6回～第21回中風明世展[アトスペース羅針盤・東京京橋](画廊企画)
- 2009 第11回中風明世展[ギャラリーパスワールド・岐阜](画廊企画)
- 2011 第16回中風明世展[極小美術館・岐阜池田](美術館企画)
- 2014 第20回中風明世展[ギャラリーいまじん・岐阜](画廊企画)
- 2013・2016 第18、22回中風明世展[ギャラリーあさひ・愛知県尾張旭市](画廊企画)
- 2015 篠田守男 中風明世展[アトスペース羅針盤・東京京橋](画廊企画)



WORK55-lines



WORK55



交通案内

JR岐阜駅または名鉄岐阜駅前から、長良橋方面行きバスで「岐阜公園・歴史博物館前」で下車(所要時間約15分)・徒歩約5分(岐阜公園内・ロープウェイ駅横)

駐車場

岐阜公園北側の場外駐車場(有料)をご利用ください。なるべく公共交通機関をご利用ください。

岐阜市歴史博物館分館
加藤栄三・東一記念美術館

～会派を越えた熱き魂の日本画家たちの挑戦～

湧湧展

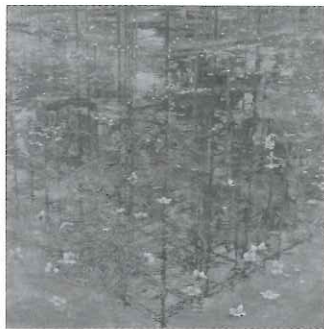
平成28年 11月8日(火)ー11月27日(日)

日本画とは、いつの時代も伝統を守る面と進化を期待する面が、必ず相対していると思います。急激に多様化する社会にあって、芸術の必要性とは何か？それを考える為に、制作意欲は日々頑固に進化する、熱き魂の日本画家6名で「湧湧(わくわく)展」を結成しました。

是非、ご高覧ご高評賜りたく、ご案内申し上げます。

■出品者

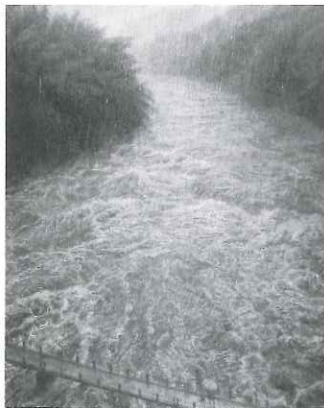
- ・神谷 由美 [創画会]
- ・木村 英史 [創画会]
- ・瀬永 能雅 [院展]
- ・楚里 清 [院展]
- ・宮原 剛 [口展]
- ・吉田 千恵 [日展]



「花降る日」木村 英史



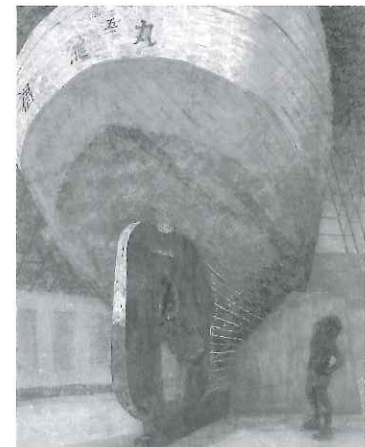
「a light wind No.4」神谷 由美



「濯枝雨」瀬永 能雅



「いざない」吉田 千恵



「船」楚里 清

次回展予告

開館25周年記念 ～感謝を込めて～
所蔵作品展 11月29日(火)～4月23日(日)

布山淳一・幸子二人展 11月29日(火)～3月5日(日)

小川 斉 洋画展 3月7日(火)～4月23日(日)